

2009 年度活断層学会学会賞

授賞者： 松田時彦

授賞理由：

松田時彦会員は、早くから全国規模の活断層調査を先頭にたって進め、日本の主要活断層とそれらの分布・活断層の運動様式などを明らかにするとともに、断層変位速度・断層運動の開始時期・変位の向きの地域的一定性（広域応力場の認定）・歴史地震や測地測量と活断層との関係など断層運動の特徴を解明し、活断層の概念と調査法を確立した。また、活断層の断層長・地震時の変位量・活動間隔等の諸特徴と地震の規模との関係を考察するとともに、明治以降の内陸大地震の規模と地震断層のデータを用いて、活断層から発生する最大地震の規模と再来間隔の関係を推定する経験式を導いた。これによって、活断層のデータを大地震の長期的な予知や防災に活用する道を開き、日本の地震予知計画の中での活断層研究の地位を確立し、活断層研究の社会的意義を認めさせた。さらに、1995 年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）をきっかけに活断層が社会問題になってからは、いち早く活断層調査の重要性を説き、その後の地震調査研究推進本部の創立や今日まで続く活断層評価手法の礎を築いた。